

令和2年度 羽曳野市立白鳥幼稚園学力向上推進計画

重点研究テーマ

○心豊かで一人ひとりが輝く幼稚園教育をめざして

めざす園児・幼児像

心豊かで、すこやかに力いっぱい遊ぶ子どもを育てる
望ましい子どもの姿

- 元気で明るい子ども
 - ・健康な子ども
 - ・生活に必要なルールを理解し行動できる子ども
 - ・元気にあいさつできる子ども
- 思いやりのある子ども
 - ・友だちや自分の良さに気付き大切にすること子ども
 - ・人や自然とかかわることが好きな子ども
- 表現力のある子ども
 - ・創りだすことを喜ぶ子ども
 - ・豊かな感性をもつ子ども

「峰塚中学校区 子ども像」

- 心温かく、力強く、生き抜く子
- ・みんな元気にあいさつしよう
 - ・ねばり強くがんばろう
 - ・力を合わせて協力しよう
 - ・勇気を出してチャレンジしよう
 - ・うれしいことはみんなで拍手しよう

本園の課題と展望について

幼児の主体的な活動を確保し、幼児期にふさわしい教育を実践する中で、幼児一人ひとりの生活を豊かにし、さまざまな人とかかわる力を身につけ小学校以降の生活や学習の基盤をつくるために、次の課題に取り組む。

- 幼児期にふさわしい生活環境や体験を通して、生きる力と豊かな心を育むようにする。
- 一人ひとりの発達や育ちに応じた指導・援助を工夫した保育実践を行う。
- 自然体験や社会体験などの体験を通して、豊かな感性と創造的な表現力を育てる。
- 健康な身体づくりのため、食育、健康管理、運動遊びに関する支援を行う。
- 家庭との連携の中で、保護者の思いを聴き信頼関係を築きながら、家庭と園が協力し合い幼児の育ちについて考える。
- 峰塚中学校区の幼小中連携に取り組み、11カ年を見据えた教育実践を行う。

学力向上のための園方針

- 「一人ひとりを大切にする保育」から「つながりあえる保育」へ一人ひとりが、達成感・充実感を繰り返し体験し、自信につなげ、次への意欲につなげる。特に、5歳児は、共通の目的に向けて友だちと協力し、話し合い、力を合わせて最後までやり遂げる活動経験を積む中で協働的学びを育む。
- 体験をもとにした遊び=学びへのつながり五感を通じた体験から、小学校課程での学習につながる興味・関心、発見、疑問などを数多く経験し、学ぶ力の礎とする。繰り返し取り組み、自分なりに考えて試すことのできる遊び(=学び)の時間と場を保障する。
- 基本的な生活習慣の確立、家庭との連携を強化し、自ら進んで動ける子どもをめざす。
- 指導案(教育課程にもとづく月案・週案・日案など)を主軸にした保育の展開を行う。(教職員全体の共通理解、発達段階に応じた保育、明確なねらいにもとづく保育をすすめる。
- ティーム保育を有効に活用する。

学力向上のための具体的取り組み

豊かな感性・豊かな知性・輝いた心の教育をめざして

- 豊かな体験活動を通して
 - ・サッカー教室、リズム遊びなどによる身体づくり
 - ・音楽(歌)を通して感じる心を育む
 - ・創造力を育む活動(絵画、制作等)
 - ・絵本教材の充実、地域協力者によるお話会、日々の読書活動
 - ・子どものコミュニケーション力の育成・集団づくり
- 「言葉」の獲得や言語を通じたコミュニケーション力の育成。日々の生活や話し合い活動における「聴く力」「話す力」の育成
- ・地域散策(自然を感じる、地域を知る)
- 保護者との連携
 - 幼児教育への理解を図り家庭と幼稚園が連携する中で、幼児一人ひとりの発達を促す。
 - ・参加型参観
 - ・子どもの成長や課題について共有(個人懇談会・クラス懇談会)
 - ・幼稚園教育の理解度を促進する(幼稚園説明会、手紙など)
 - ・子育て支援(なかよしランド)
- 保・小・中学校との連携
 - 互いの保育や教育について理解を深め、学びあう。
 - 交流を通して人とかかわり方を学ぶ
 - ・軽里保育園との交流
 - ・他の幼稚園との交流(羽曳野市公立幼稚園)
 - ・小学校各学年との交流
 - ・小学校の図書館利用
 - ・中学生職業体験
 - 教職員間交流
 - ・峰塚中学校区幼小中連携の取り組みの中で、発達や学びの連続性について共に考え、話し合い、滑らかな接続をめざす。
 - ・夏季研・授業研を通して、互いの保育や教育を理解し合い、11カ年で共通する教育の課題を明確にする。
- 地域との連携
 - さまざまな人との出会いから学ぶ
 - 地域教育力の活用
 - ・更生保護女性会の方との交流(おはよう運動、一緒に遊ぼう)、
 - ・白鳥児童館の利用、お話会など
 - ・地域の方に園行事に参加していただいたり、地域の行事に参加させていただいたりする中で様々な人との出会いを経験する。(高齢者との交流・ようちえんまつり・おもちゃつきなど)
- 教職員一人ひとりの資質・指導力の向上
 - ・一人ひとりの発達や育ちに応じたかかわり
 - ・幼児の心の動きの先を見通し、適切な環境が整えられるようにする。
 - ・職員間の共通理解、観察と分析を行い、丁寧な保育に務める。
 - ・家庭・幼・小・中の学びの連続性を考えた保育をすすめる。
 - ・研修への参加・共有
 - ・教材研究(絵本、活動に応じた素材の選別等)
 - ・配慮を要する子どもへの支援のあり方
 - ・人権教育の理解と推進